

# 都市再生整備計画 事後評価シート

保谷駅南口地区

平成23年3月

東京都西東京市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	東京都		市町村名	西東京市		地区名	保谷駅南口地区			面積	23ha		
交付期間	平成19年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	2,667	(百万円)	国費率	0.407			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(東町三丁目地内雨水対策工事)、市街地再開発事業(保谷駅南口地区)										
		提案事業	コミュニティインフラ(図書館・公民館)床取得										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	まちづくり交付金事後評価調査			事業が不要となったため			影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし							
	変更	平成19年度～平成22年度											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	歩行者流量によるサービス水準	人/m・分	12.78	H18	5未満	H22		4.81		あり なし	街区ビルが完成することで、従前よりも歩行幅員が拡大し、安全性が高まることで歩行者量も増加が見込まれる。結果として、歩行者流量によるサービス水準の数値は5未満となる。	平成23年4月頃
	指標2	道路冠水日数	日	4	H18	0	H22		0		あり なし	雨水貯留施設の整備によってかえで通りの道路冠水被害は減少した。	平成23年7月頃
	指標3	駅乗降人員	人/日	52,954	H17	54,014	H22		56,964		あり なし	駅前の公共施設整備により駅前の交流人口が増加した結果、一日平均の駅乗降客数が増加した。	平成23年7月頃
	指標4										あり なし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度 <sup>1)</sup>	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	図書館個人貸出冊数(一日平均)	冊	1,006	H19			1,572				図書館が駅に直結する再開発ビルに移転したことで、より多くの人に利用されることになり、一日平均の貸出冊数が増加した。	平成23年7月頃
	その他の数値指標2	歩行者流量によるサービス水準(街区ビル前)	人/m・分	11.26	H18			3.97				街区ビルの壁面後退によって 街区前の都道233号線の歩行空間が広がった結果、歩行者流量によるサービス水準の数値が下がった。	平成23年4月頃
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	住宅地にあった図書館が駅に直結したビルに移ったことで、通学・通勤帰りの学生・社会人といった新たな利用者層が大幅に増加した。再開発ビルの中に駐輪場が整備されたことで、放置自転車が増加した。												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス		保谷駅前公民館・図書館の施設整備に関するパブリックコメント				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				利用者からの意見や要望を反映し、より利用しやすい図書館、公民館の運営を行う。		
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

## 様式2 - 2 地区の概要

保谷駅南口地区(東京都西東京市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:安全で快適に暮らせる魅力あるまちづくりを進める 目標1:交通環境を改善し、交通の円滑化と歩行者の安全性、快適性の向上を図る 目標2:居住環境を改善し、建築物の不燃化や道路冠水対策を促進するなど、防災性の向上を図る 目標3:まちの魅力を向上させ、交流人口の増加を図る		歩行者流量によるサービス水準	単位:人/m・分	12.78	H18	5未満	H22	4.81	H22
		道路冠水日数	単位:日	4	H18	0	H22	0	H22
		駅乗降人員	単位:人/日	52,954	H17	54,014	H22	56,964	H22
		図書館個人貸出冊数(一日平均)	単位:冊	1,006	H19			1,572	H22
		歩行者流量によるサービス水準( 街区前)	単位:人/m・分	11.26	H18			3.97	H22
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">  <p>街区ビル</p>  <p>街区ビル、駅前広場(工事中)</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>保谷駅</p> <p>都道233号東大泉田無線</p> <p>かえで通り(西東京市道105号線)</p> <p>西武池袋線</p> </div> <div style="width: 20%;">  <p>保谷駅前図書館</p>  <p>市街地再開発事業完成イメージ図</p> </div> </div>									
まちの課題の変化		再開発事業によって壁面後退した再開発ビルが整備され、駅前の歩行者の安全確保や防災性の向上が達成された。 雨水貯留施設の整備によってかえで通り(市道105号線)の冠水被害が減少した。 駅前図書館、公民館の整備によって駅前の交流人口が増加した。 再開発事業の区域外となった保谷駅周辺の道路は依然として歩道が整備されていない箇所が多く残されているため、さらに歩行者の安全性確保に向けた施策が必要である。							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		駅前図書館・公民館を地域交流活動の拠点として、講座やイベント開催等のソフト事業を通じて地域交流の更なる向上を図る。 壁面後退により広がった再開発ビル前の歩行空間に放置自転車等の障害物による支障が出ないよう、放置自転車の取り締まりなどの適切な歩行空間の維持管理を行う。 更に防災性の効果を向上させるため、駅前広場の早期整備完了を目指す。 雨水貯留施設が十分な機能を発揮してかえで通りの冠水被害を防止できるよう、常時適正な施設の維持管理を行う。 保谷駅周辺道路の歩車道分離や渋滞緩和など、歩行者の安全性確保に向けた道路整備の検討を進める。							